

30

相高 わかこま Web

県立相馬高等学校 出版局
元年度第30号
令和2年3月11日(水)
編集人 山本 風佳
発行人 長階志穂子

東日本大震災 9年前の記憶

震災の時

●地震があった日から、職員が24時間勤務態勢になった。その日、自宅に戻ることができたのは夜中の1時頃だった。不規則な時間で仕事をし、家と職場を行き来するだけの日々が続いた。子供達三人は祖父母が学校へ迎えに行ってくれていたため、無事に家について安心したことを覚えている。

●とにかく家族が心配だった。電話では連絡がつかなかったため、知人を通して家族全員が生きていることを知った。自分は仕事のために避難はできない、だから妻と子どもだけ、県外に行かされた。全く知らない土地に子ども三人を抱えて飛び出した妻は本当に不安だっただろう。

6月までは月に一度



▲2011年3月12日 釣師浜（新地）の日の出

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●地震当日は原釜にいたので、園児を避難させることで精一杯だった。地震の後、続々と保護者の迎えが来た。津波が来ると知って、迎えが来ていない園児たちを保育園の屋根にしがいで避難させると、目の前の松川浦に黒い津波が家や船などと一緒の流れてきていた。自分たちの車も流され保育園の前も海

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

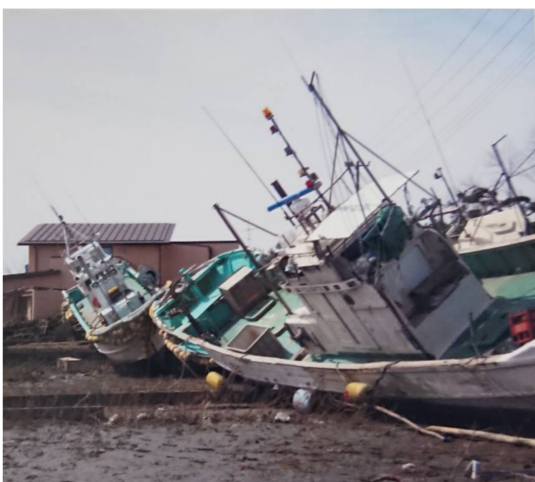
●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。



▲原釜（相馬）の陸に打ち上げられた漁船

●正直なところ、震災からもう9年経つという実感がありません。当時はまだ小学生で、2歳下の妹と一緒に学校にいた。そのとき住んでいた家が古かったこともあり、家に一人でいた祖母、それから飼っていたペットのことをすごく心配したことをよく覚えています。

●東日本大震災から9年の年月が経つが、あの日のことはずっと鮮明に覚えている。そのとき私は職場にいたため命だけは助かった。お客様の誘導をしながら、頭は家にいる母のことについていた。しかし、沿岸部にある実家にいた母は津波に

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

●地震が収まり家に戻ると、茶箆筒が倒れ悲惨な状態になっていた。炭で暖まる掘りごたつを用意したり、風呂に水をためたりしてこれからに備えた。原発が爆発したのを知り、放射線を気にして畑の野菜を収穫し倉庫に入れた。

●津波で教え子と習い事でお世話になった方を亡くし、あまりに突然のことが次々と起きて何も考えられない必死の日々が続いた。

●震災当時は家において、孫たちの宿題を見ていた。大きな地鳴りがして、逃げろと言ったが孫たちはなかなか逃げなかった。その後大きな地震が発生、急いで裸足のまま孫たちを安全な場所に避難させた。雪も降り始め、辺りは暗く寒くなりとても辛かった。

【出版局から】
3月11日は福島県に未曾有の災害が起きた日です。私たちはこの災害を忘れないために、昨年と同様このような紙面を作りました。残念ながら今年も新型コロナウイルスの影響で休校となったため、ウェブ上での発行となつてしまいました。昨年相高の生徒や先生方の記憶を載せましたが、今年も家族や周りの大人の記憶を取り上げました。私たち子どもが不安だったとき、大人もまた不安だったことに改めて気づきました。

●怖かったね、あんな大きい津波は初めてだったよ。うちは目の前が海だからすぐに津波の心配をしたね。まだ保育園生の孫も居たから大急ぎで高台になつてお墓に逃げて…不安だったね。逃げたは良かったものの、墓石があつちやこつちやしててね、安全とは言えなかったんじゃないかな。余震の度に身体が震えていたよ。

でも、良い経験になったんじゃない？みんな「当たり前」のありがたみがわかったでしょう。